

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成21年 8 月28日

徳 島 県

1 病害虫名

カボチャモザイクウイルス(*Watermelon mosaic virus:WMV-2*)に起因する
カボチャモザイク病

2 発生作物

ズッキーニ(ペポカボチャ)

3 発生地域

藍住町及び北島町

4 発生面積

約20㎡

5 発生の経過

平成21年 6 月25日, 藍住町の農家から鳴門藍住農業支援センターを通じて, 果実にモザイク様の凹凸を生じたズッキーニの持ち込みがあった。当センター病害虫担当において DAS-ELISA法によりウイルス検定を行なったところ, 本県では初確認となる *Watermelon mosaic virus*(WMV-2)が検出された。

近隣の北島町においても類似の症状が発生していたので, 7 月 2 日にウイルス検定を行なったところ, CMVやZYMVとの重複感染が確認された。

6 病徴

葉に葉脈緑帯状のモザイク症状が現れ, 奇形化する。新葉が通常に比べて細くなる他, 草丈も低くなる傾向にある。

果実にも凹凸を伴ったモザイク症状を生じ, 場合によっては非常に激しい症状を呈する。

7 発生生態等

アブラムシによって非永続型の伝染をする。作業中の接触により比較的容易に汁液伝染するので注意を要する。

ウリ類のほかには、エンドウ、ソラマメ、インゲン等のマメ科植物、アオイ科、アカザ科等23科の植物に感染が認められている。

8 防除上の注意等

ウイルスを保毒したワタアブラムシ、モモアカアブラムシ等の各種アブラムシが吸汁する際に伝搬されるので、媒介虫であるアブラムシの防除が重要な対策となる。アブラムシ防除薬剤の土壌施用と地上部散布に加え、飛来防止のためムギなどの間作、寒冷紗被覆等の回避策が有効である。

接触伝染を抑制するために、ハサミ等の作業用具を第三リン酸ソーダにより消毒する。伝染源を減少させるために、発病株は早期に発見し、速やかに除去する。



